

令和6年3月定例会議 一般質問

10番議員 山下 純夫

「オールかいせい」のまちづくりを推進する、道路緑地ボランティアを有効活用した道普請事業の制度化を

町長はかねてより「オールかいせい」のまちづくりを提唱されている。しかし町内のムードの醸成は十分ではなく、現状40団体ある道路緑地ボランティアの活動も、活発とは言えない状況である。

「開成町協働推進計画」にも町民公益団体の課題として「それぞれの活動が町民にあまり知られていない、財源、人材などの活動の基盤が弱い」とあり、町の役割には「町民公益活動団体等との協働による地域課題の解決のため、事業の推進が求められる」とある。

しかし、課題として「町全体での取り組み体制ができていない」とされている。

一方子どもが増え、人口が増加し続ける開成町といえども、高齢化率は2020年の国勢調査では26%であり今後も高くなっていく見込みである。そうした高齢者は交通量の多い道路を避け、車両の通行のない細い道路を選びがちだが、そのような道路は得てして路面状況が悪く、また改修も後回しにされがちで、杖や歩行器を使う高齢者にとって歩きやすいものではない。そこで以下の2点を問う。

1. 道路緑地ボランティアを町が主導して計画的に活動してもらう考えは。
2. 道普請事業を制度化して、町と町民公益団体が協働で環境整備を進める考えは。